

令和4年度 幼児教育研修（年齢別担任研修2歳児）全3回まとめ
「子どもの発達と保育者の関わりについて」

講師：彰栄保育福祉専門学校 専任講師 山梨 有子 氏



2歳児の基本的な発達

基本的な運動
機能の発達

階段をスタスタ登る
両足ジャンプ等

身の回りのこと
を自分でし
ようとする

1歳半くらいから
見られる姿

他人への
関心が高まる

身近な大人から仲良しの
友達へと少しずつ広がっ
ていく

行動範囲が
拡大する

興味・関心が高まっ
てくる

言葉の理解が
進む

自分の意志を親しい大
人に伝えたい欲求も高
まる

象徴機能の
発達

玩具を実物に見立てる
ごっこ遊びが盛んになる

自我が
芽生える

「自分で」を受け止めて
もらうことが意欲・やる
気につながる

1, 遊びの環境を考えると



山梨先生から
ワンポイントアドバイス①

2歳児クラスまでに五感を使った
遊びを存分に行うことで子どもた
ちの経験が豊かになります。

視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚を使
う遊びにはどんなものがあるか考
えてみましょう。



山梨先生から
ワンポイントアドバイス②

ねらいや意図をもって環境を準備
することは大切ですが、意図せず
偶然生まれた環境を面白がること
も2歳児保育の醍醐味です。目の
前の子どもが何に興味をもち、何
を面白がっているのか見取りそこ
からねらいや計画に繋げていきま
しょう。



2, 保護者支援について

保護者が「親」としての自信を育めるような働きかけをしていく。

保護者との関係づくりのポイント

☆日頃からのコミュニケーションを大切にし、日中の子どもの姿で素敵だなと感じたエピソードを具体的に伝え、育ちを共有し喜び合う。

☆相談に来てくれた時は、すぐに回答を出すのではなく、まずはじっくりと傾聴することが大事。

3, 保育者の関わりで大切にしたいこと

☆ポジティブな言い換えの習慣をつけよう

狭い部屋で走り回っている子に対しては、「走らないで」ではなく「歩きましょう」と肯定的な言い方で伝えましょう。

また、「片付けしないとおもちゃを渡さないよ」などの条件付きメッセージも避けましょう。

子どもがしていることを肯定的に見る視点を持ち、なぜ今日の前の子どもがそうしているのか考えて環境や関わりを見直しをしていくことが必要です。

☆イヤイヤ全盛期を受け止めよう

主張すべき時に押さえ込んでしまうと成長できません。まずは主張が先にあり十分に受け止めてもらう経験を積むと抑制の感情が芽生えます。自己コントロールができるようになるのは、就学前になってからと心に留め、まずは子どもの思いに共感することが大切です。

☆育ちを急かさない

子どもの成長には年度の切り替えはなく、ずっと繋がっているものです。

3歳児クラスに進級するからと身辺自立を急かすことなく、「今この子はこういう成長段階です」と職員間で共有し一人一人の育ちのペースを受け止めましょう。

4, 生命（いのち）の安全教育について

☆自分を大切に思う気持ちを育むことが第一歩。

☆身近な大人に大切にされる経験が乳幼児期は特に重要で、この身近な大人とは園の中で長い時間接する保育者である。

2歳児クラスでの具体的な取り組み

上下の着衣を同時に脱いで裸でいる状態にならないよう、上衣を脱いだら上衣を着る、ズボンを脱いだらズボンを履くと具体的に人前での好ましい着替えの仕方を伝える。

まとめ

保育者は、子どもの「自分で！」の実現を援助するために、子どもの中に流れる時間を汲み取り十分に、たっぷりと、ゆるやかに関わり見守っていく。

そして、叱ることのない環境を作り、躰けるのではなく愛情をたっぷり注ぐ。

保護者と共に子どもの成長を喜び合う。

<研修生の報告書より>

単に「子どもが今日は〇〇を楽しんでいた」だけでなく、「何を面白いと感じたのか」「どんな気づきや発見があったのか」など様々な視点で子どもの姿を見つめていくことの大切さが改めて分かった。

2歳児はみんなで仲良くすることよりも自分が大事という思いを育むことが大切だと学んだ。自分を大切にしてもらうことで、相手のことも大切にできるようになるのだと分かった。

2歳児のイヤイヤ期の子どもたちへの関わりに悩んでいたが、今のイヤイヤ期があるからこそ、自己コントロールが身につくことが改めて分かった。受け止める力の大切さ、言葉掛けの大切さを心に留めながら保育をしていきたい。